



注目の1冊

日本の洗濯—考えるエッセンス

黒川 清、板垣雄三、猪口 孝+田辺 功 著

西村書店
1000円/245ページ

profile

くろかわ・きよし
いたがき・ゆうぞう
いのぐち・たかし
たなべ・いさお

日本学術会議会長、東京大学先端科学技術研究センター客員教授。1936年生まれ。
東京大学名誉教授（イスラーム史）。1931年生まれ。
中央大学法学部教授。1944年生まれ。
朝日新聞東京本社編集委員。1944年生まれ。

評者
石倉洋子

一橋大学大学院国際企業戦略研究科教授

3人の著名学者が縦横に
論じる学問と日本

タイトルからは想像がつかないが、本書は、医学、中東、国際政治と異なる分野の学者3人が朝日新聞編集委員の質問に答えて、日本における「学」の役割、イスラームを中心とする従来とは違う世界観、日本の成功の背後にある歴史の流れなどを、自由かつ勝手に話した座談集である。大局的な話題だけでなく、3人の子供時代、自分の専門分野を見出したきっかけ、今、日本や世界について怒りを感じていることとそれに対する解決案を具体的に語っている。ほとんど編集なしに発言をそのまま生かしているため、三者三様のパーソナリティが感じられ、その場の雰囲気を感じることができるという利点がある。一方、3プラス1人という方式のため、似た話が複数箇所に登場したり、発言が断片的であったりと、話の背景や詳細を知らない読者が理解しにくい所がある。この点で、内容への関心がそがれる読者もあるだろう。

全体としては、国における科学の役割・教育の重要性に焦点が当てられている。特に、官僚

目次

日本の洗濯—考えるエッセンス

- 第1章 遊びから知へ
——僕らはこうして学んできた
- 第2章 変われ、アカデミー
——コミュニティの応援団
- 第3章 すべてはイスラームにはじまる
——ヨーロッパの近代はイスラームの出店
- 第4章 外の世界をみる
——富士山もあればマッキンリーもある
- 第5章 メディアの問題
——プロを育てないシステムで権威を守る
- 第6章 テロの地球はどうなる
——パレスチナ問題が解決すればテロは消える?
- 第7章 地球政治
——政治家としての文系と理系のバランス

化した日本の学問や、自由な発想に乏しく、身近な地域社会に参加しようという社会的責任感のない学者に対して、3人が会員や会長を務める学術会議が進めている新しい方向や改革が情熱を持って語られている。

また、教育を越えて、現在の日本が直面する課題を、国際経験豊富な3人が違った分野から共通して提起している点は興味深い。たとえば、現在の価値観がどのように形成されてきたかに対する歴史観や理解がないこと、変化が著しい世界に対する非常識とも思える感覚の欠如、官僚、企業、メディア、学者いずれも内向きで、世界やアジアにおける日本の役割を実現するために、具体的な行動を起こす当事者意識やビジョンを持たないこと、多様性が許されない日本の社会構造やメンタリティーなど、共感する点が多い。

いずれも、若い世代が、一人での世界へ出て行き、現地を実感すること、過去のリーダーや教育に盲従することなく、現在起こりつつある変化を踏まえた自分なりの見解を持ち、自信を持って世界へ発言することへの期待を語っている。

対談集であるため、さっと読めるし、読者が自分で「考える」ための材料となる興味深いアイディアが多数詰まっている。学者・教育者はもとより、日々の仕事をこなすことに忙殺されているビジネスマン、新しい時代を担う子供を持つ両親などに薦めたい。時間と地域という二つの軸で思考の世界が広がる感覚や醍醐味を感じるきっかけになる。「学」の改革が実績に結びつき、続編で語られることを期待している。